

2015年3月19日

第10回新エネルギー小委員会への意見書

委員 辰巳菊子

第10回新エネルギー小委員会に出席することができないため、書面での意見を提出させていただきます。ご検討をどうぞよろしくお願いいたします。

1. 新エネ小委は新エネを最大限導入するための目標値を出す委員会であるべきだと思います。

新エネ小委では、2030年に向けた目標値の算出をすることに徹してほしいと思います。しかし今まで、どうすれば新エネを抑えられるのかの議論に集中してきたきらいがあります。小委員会本来の最大限導入目標値の議論を行うべきです。

環境省の「再生可能エネルギーの導入見込量・効果影響の推計」(12月19日付)なども、我々からすれば税金を使って調べられたデータであり、納得する数値もたくさんあります。最大限導入のための目標値作成に向け、並べて検討すべきではないかと思っています。

2. 風力導入量の数値が事業者の見積もりと乖離しすぎていると思われます。

前回の新エネ小委で出された風力の導入量の見込みについて、事業者の現実的な見積もりとの乖離が大きく、まずはこの問題を解決するべきです。もし1200万kWが現在の見通しであるならば、事業者のいう3600万kWに持っていくためにどうするべきか、制度的な面からの検討をするのが新エネ小委の役割ではないでしょうか。

3. 導入可能量の見直しと出力抑制ルールは透明性を持って行ってほしい。

既に昨年末からの出力抑制の話で、十分に太陽光発電を主として新エネのマーケットは萎縮してしまっている。家庭用太陽光についても落ち込んでいるとのことを家電販売点関係者から聞いています。本来なら家庭用が落ち込む理由はないはずだと思いますが、説明不足です。家庭用太陽光発電は省エネにもつながる有効な新エネなのに大変残念です。もっと増加につながるキャンペーンが必要です。

以上